

ユーモアスピーチ船橋

2018 (H30) 年 12 月 13 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

152 回船橋ユーモアスピーチ

2018 年 12 月 13 日 (木)

3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「1 年を振り返って」

ロングスピーチ

「脳トレ・体操レク」

はらだま さん

「仏陀と四方山話」

松本 喜代子さん

11 月 8 日の参加者：稲葉、工藤、中久木、中島、飯野、
辻内、はらだま、西内、松本、田谷、松永、大塚、山田、
植野、早瀬、町田、長嶋 17 名

主催：NPOシニア大楽

ユーモアスピーチ共和国・船橋支部

支部長：長嶋秀治 043-261-5832

発行者：長嶋秀治

編集&事務局：町田雅和

267-0066 千葉市緑区あすみが丘
5-26-7 T/F 043-294-2911

mac555new@ybb.ne.jp

参加費 500 円 (入会金 1000 円)

開催日と場所

毎月第②木曜日 14:00~16:30

会場「ニッセイ・ライフプラザ船橋」
船橋市湊町 2-1-1 日生船橋ビル 1F

ロングスピーチ

「すぐできる簡単マジック」

5 種類のマジックの演じ方を説明し、紹介したマジック道具を希望者にプレゼントしました。マジックは不思議さの演出が大切です、リングがチェーンに絡みつくだけではマジックではありません、まったく同じ動作をしているのに、おまじないを掛けると、いままで落ちていたリングがチェーンに絡みつくから不思議さと楽しさが出るのです！皆さんも見て楽しむマジックから、演じて楽しむマジックへ移行しませんか？

町田 雅和さん



ロングスピーチ

「古くて新しい“結核”の話」

松永 成三郎さん

この病気は人類の古い歴史と共に存在し、文明が高度に発達した現代においても今なお発病が絶えていません。古くから歴史上の記録や文学作品に取り上げられ、そして近代文明・産業の発達の負の側面として、あるいは戦争の時代に集団発生したりしています。我が国は戦後から一貫して結核の発病率は低下し続けていますが、ここ 20 年くらいは下げ渋り、経済先進国の中では突出して多い状況です。

古今東西、結核は数多くの文学作品に取り上げられてきました。古くは枕草子(病は、胸の気、もののけ、脚の気)や源氏物語(しはぶきやみ、胸の病)から始まり、近代では夭折した、正岡子規、樋口一葉、石川啄木、堀辰雄の方々がよく知られています。

結核の 8 割以上は肺結核です。我が国の発病のピークは戦時中ですが、最新の統計でも毎年 18,000 人前後が結核を発病し、約 1,900 人が亡くなっています。発症には免疫が深く関与しているので、他の病気や、衛生・栄養などの状態が悪いと発病することがあります。昔は比較的若い人がかかっていましたが、最近では免疫力の低下する高齢者の病気になってきました。



肺結核にかかると、痰がらみの咳が出て全身倦怠感や微熱が長く続きます。最初は風邪の症状と区別がつかないことがあるのと、高齢者は自覚症状が比較的少ないので発見が遅れる傾向があります。おかしいと思ったらすぐ医療機関を受診することをお勧めします。

昔、結核にかかって治ったという人でも油断は禁物です。結核菌は古い病巣に冬眠状態で何十年も生き続けて忘れた頃に発病することがあるので、今でも忘れてならない感染症です。健康的な生活とふだんの注意で発病を予防し、定期的な健診を欠かさないようにしましょう。

3 分間スピーチダイジェスト テーマ「余りもの」、「交番」

山田 正國：「余りもの」

今年の3月ごろまでの命かとおもっていたら、オペ成功で11月になってもこうして出席できる。余った命のようなもの せいぜい大事に有効に使いたい。親や兄弟、学校の先生、友達いろいろな人に教わり助けられ、生きてきた、もうその前半の殆どの方々は他界されもう恩返しはできない。そこで今の周りの方々にせめて迷惑をかけないように【或るいは迷惑をあまりかけないようにの方が正確かもしれない】思い、物忘れが外来で検査を受けた、精神科の看板の有る病院はやっぱり抵抗はあるが、健康診断の積りでうけた、最初の医師の 質問は なぜここにきな のこの分野の健康診断は受けたことないし、最近物忘れが多いから、それから、TVなどでよく聞く沢山の 凶形 や 名前を短い時間 見せ 後で何があったか、など矢継ぎ早に質問されたり、結局のところ、年相応ですね。 特筆すべき悪いところはない。まあ一安心かな。

田谷 正明：「交番」

3・11の震災で昭39年に始まった埋め立てで出来た新浦安の街は大規模な液状化に見舞われた。マンションやホテル、病院など大きな建物の直接的な被害は無かったが、戸建て住宅の多くが傾いてしまった。特に壊滅的な被害を受けたのは交番でした。構造上、簡単な箱を地面に置いただけなのでメチャメチャに壊れ砂に埋もれ、見るも無惨な状態でした。どの交番も粗末で貧弱でおまわりさんが可哀想。宝くじが5億円当たったら立派な交番を寄付して上げたい。

西内 幸雄：「自由題」

10月中旬3泊4日、妻の実家（山梨 身延町、現在義母はホーム入居中に付き無人家屋）の台風の爪痕残した実態を見ました。被害は長期の停電、屋根の破損、ガラス窓破損、庭木の倒れ、小屋の半倒壊等々と聞いていました。着いてみると、親戚・近所の方々が補修、修繕、片付け等粗方してくれていました。大がかりな補修等はありませんでした。助かりました。田舎ならではの人の温かさをしみじみと肌で感じました。私共がしたことと言えば、いつもの邸内の清掃だけでした。これからも度々行くことの必要を実感しました。

飯野 望：「余りもの」

私は、自慢じゃありませんが毎日の食事は余りものです。いつも冷蔵庫から出して食べますが、繰り返すと嫌になります。そこで、最後に残ったおかずを次のおかずに足すのを繰り返し、秘伝のおかずが誕生しました

工藤文夫：「変わっていた職場の先輩たち」

ときどき変わっていた職場の先輩たちを思い出すことがあります。

○新入社員の先輩同行で「自分はシャイだから、商談を見られたくないので車に乗って待っていて」といわれ、日報作成に苦勞した。・・・その先輩はその後経理部に異動になり、平社員で定年退職。

○営業車にラジカセを持ち込み、音楽鑑賞でなく、エロテープを聞いていた先輩。➡係長で定年退職。

○同行して昼食の際に、店内の「コショウ」「七味」等々をトイレに中身を捨ててくる先輩。（何故そんなことをするのか？と問うと、補充すれば間接的に売り上げアップする。➡課長で定年退職。

○靴の中に「10円玉」を入れておくと、水虫予防になるとやたら勧める先輩。➡支店長まで昇格。

○料亭で刺身の「ワサビ」が気が抜けてるので板長を呼びつけ、「どのメーカーのわさびを使用しているのか？」と問い詰めたあげく「ハウス食品」とわかると、「気のせいかな今頃、辛さが伝わった??」と頭の回転の速く、切り替えのうまかった先輩は➡役員まで昇格。いろんな先輩がいました。

町田雅和：「交番」

落語に出てくるドジな泥棒が、金持ちの家と間違えて、交番に空き巣に入っていますが、これは交番にあった電話機が珍しく、各家庭には無かった時代のお話として・・・古い落語を改作してヒットした例もある、明治初期にあった「御前じるこ」という噺を昭和40年代に「ぜんざい公社」にアレンジした師匠がいたとか。それぞれの時代にマッチした噺を作るのは難しいようですが、落語も現代の風俗・習慣とかけ離れては笑えません、落語ファンとしては、どんどん優れた新作落語が出てきて欲しいと願っています。

中久木一乗：「余りもの」

「余りもの」と言えばまず、冷蔵庫の中と鍋の中の食べ物。現役時代には「また、これ!!」と感じたが、年金時代の今は、「また儉約できる!」と感じる。同じものでもこれだけ違う。

次に思いつくのは、コピー類や 貰った印刷物・冊子の余りもの。各種情報を、同輩や後輩に送りつけるのが趣味で、同じ資料のコピーをいつも余分に持っているが、特に最近は何を送りつけたかが分からなくなり、私の机の上は紙クズの山。手紙は雪山の洞穴よろしく穴を掘って書いている。

3番目の余りものは、捨てられなくて溜まったガラクタ類。ガラクタマジックを続けるためには、普段から手当たり次第にガラクタを集めて置く必要がある。結果として「余りもの」が「あり余って」いる

松永 成三郎：「余り物には福」

余生という言葉がありますが、まだまだやることが多くのんびりしたという気持ちがありません。としをとっても福を維持するためにはそれなりの努力が必要と思っています。少年時代から大学入学まで病気で苦勞しましたが、その後の人生は勉学、アルバイト、卒業そして結婚から今の仕事まで、全て努力の後の余り物には福があるという気持ちで今に至っています。

植野晏生：「おやじギャグ」

「ちこちゃんに叱られる」でおやじギャグを言うのは、というのがありました。歳をとっても側頭連合野にボキャブラリーが溜まっていくのに、前頭葉の働きが低下しブレキがきかなくなっているから、と。ここでちこちゃんの声はお笑い芸人の木村祐一というのは比較的知られているようです。ボイスチェンジャーで子供の声に変えるのですね。顔はCGで。ところで中身はミッキーであるらしいというのはまだかも。「つまんねー奴だなあ!!」

長嶋秀治：「余りもの」

スパゲッティはマカロニを作ったときの余りもの、産業廃棄物だったことをご存知？そのスパゲッティを食べるべく東京駅地下街を物色した。牡蠣のペペロンチーノという看板に一目惚れ。しばしの後、運ばれてきたのは麺の無い代物。???ひょっとしてワインのつまみ？メニューを確認しなかったのが悪かった。でも、おいしかった。今度は是非ワインを飲みながら味わいたい。数軒先の讃岐うどんで腹を満たした

中島 孝之：「自由題」

8月の例会で切手や古銭が有るけど売れるとこ知りませんかと、この会で話した翌週の月曜日に切手や古銭を買いますとチラシが入りました。早速柏駅前の店に行くと切手は原価の70%で買ってくれて、お金は自動販売機では使えないけど原価で預金ができるとのことで、聖徳太子の1万円や100円札にオリンピックの記念硬貨が沢山あり8万円になりました。義姉が三味線やっていたので使わなくなった三味線と、私が若い頃使っていたカマカのウクレレが底板がはがれていたのですが、7千円で売れましたが何か虚しい感じでした。

早瀬君子：「交番」

両親が正月旅行で留守となり、用心のために泊りに来てくれていた叔父が昼寝をしていたので、カギもかけずに近くの商店へ買い物に出掛けた。20分ほどして家に戻り、玄関を開けた途端、見知らぬ男が荷物を両腕で抱えるようにして慌てて飛び出して来た。吃驚して声を掛けようとする間もなく、男はそそくさと小走りに去って行った。事の顛末を叔父に話すと「それは泥棒に入られたんだ！」と大騒ぎになり、何を盗まれたのかと、荒らされた気配がない部屋の中をよくよく見渡した結果、壁に掛けてあった私の制服のコートが無くなっていることに気付いた。近くの江戸川橋交番から警察官に来てもらおうと、まだ若いお巡りさんは高校生の私を見た途端に“顔が真っ赤”になってしまった。警察官が帰ったあと、「お前の顔を見て顔が真っ赤になったなあ」と笑った叔父の言葉や、(美少女でもない)私に赤面した何と純情な若いお巡りさんの表情と大きな体も、半世紀以上も前の記憶の彼方から鮮やかに蘇った。

☆1月は恒例の「かくし芸大会」です。

出し物、芸名、所要時間を町田にご連絡下さい

※会場は、ユーモアスピーチ、かくし芸とも、中央公民館 第一和室です

予告：1月 「船橋ユーモアスピーチ」と「かくし芸大会」

1月10日(木) ユーモアスピーチ

13時30分～ 中央公民館 第一和室

かくし芸大会

15時00分～ 中央公民館 第一和室

スピーチテーマ 「今年の抱負」